



つながり

～やさしく かしこく たくましく～

第5号
令和5年10月27日発行



山口大学教育学部附属幼稚園

安心安全にのびのび遊べる幼稚園をめざして

副園長 高田和宜

6週間の教育実習生が加わった大人の手と目がたくさんある生活が終わり、友達とのかかわりに気持ちが向く生活が始まっています。安心安全にのびのび遊べる幼稚園を目指して、保育の質の向上と職員の安全管理・研修を積み重ねています。具体的な取り組みを保護者の皆さんにお伝えし、成果と課題を共有したいと思います。

保育者の子ども理解と保育の現状と課題を共有するため、これまでも毎日保育後のミーティングを行っていましたが、今年度はミーティングの目的を明確にし、具体的に課題解決が進むよう学年ミーティングや全員ミーティングを行い、研修の質の向上を目指しています。全職員研修として、幼児教育教室の川崎先生を講師に、園児の遊びの情報共有と危機管理に関する研修をはじめ、AED研修（プール使用の対応を含む）、アレルギー研修、エピペン研修、消火訓練、さすまた研修（幼小合同）、子ども理解研修（幼小中合同）等外部の指導者にもご協力いただきながら行ってまいりました。特に、金曜日をその週のヒヤリハット事案を検証し全職員で対策を考えるミーティングとし、それに基づいた環境整備をしています。その他にも、園務分掌ごとの研修（交通安全・発達支援・幼小一貫教育・非認知能力について等）、多岐にわたって行っております。

しかしながら、怪我は起こっています。今年度の前半の怪我の多くは打撲、捻挫、擦過傷です。過去3年間すべて10月以降の後半に怪我が多くなる傾向ですので、全職員で意識してまいりたいと思います。段差をすべてなくすることはできませんが、園での転倒防止のため、風組の下駄箱前のマンホールや雨水枡の段差、遊戯室前のケヤキの根が浮き出た場所は職員で真砂土を入れてレベルをそろえ、芝生を植えました。園児が安心して駆け回れるために、芝生が定着するまでしばらく不便をおかけします。

子どもの怪我の多くは不安全な環境による怪我よりも、不安全な行動による怪我が多いことが分かっています。園での怪我は転倒による打撲、擦過傷が多いです。転倒の場合、年少ほど頭や顔の怪我が多く、年長になるにしたがって肘膝になります。年少児はまだ、体に対して頭が大きく重い時期ですので、転倒したときに頭を打ちやすくなります。年長児でも顔を打つ場合もありますが、転ぶ原因の一つに、腕の筋力がなくとっさのときに体を支えられないというのがあります。筋力がないと、体を支える以前にとっさのときに手を前に出すこともできません。もちろんとっさの時に踏ん張る足の筋肉とバランスも大事です。これらの力をつけるのに適した遊びに星組が楽しんでいるしっぽ取りがあります。

しっぽ取りでは常に走るため、体力や持久力がつくほか、とっさに踏ん張る力や筋力アップにもつながります。ルールを共有しながら（転んだ人のしっぽは取らない、手をつかまない、しっぽを取られたら待っている人に代わるなど）遊びを自分たちで進めることで折り合いを付けたり、相談したりなど協働性を発揮する機会にもなっています。

のびのびと存分に体を動かして遊ぶことで、心も体もたくましく育っていく幼稚園を目指しています。